

自己実現とキャリアデザイン

松久保 暁子

1. 自己実現とキャリアデザイン開講の背景

若者の雇用状況が悪化する中、学士課程教育でのキャリア教育の必要性が高まっている。桜美林大学では2000年度から「社会のマナー」、そして2003年度からは全学必修科目で1年生を対象とした「キャリア開発」^註を開講しており、他の大学に先駆けて正課内でのキャリア教育を行っている。そして2007年度からは「自己実現とキャリアデザイン」という科目名で、主として1、2年生を対象とした選択科目として開講している。

2. 授業目的、授業内容

授業の目的は「(1)社会人となるための心構えやマナーを知る、(2)働くことの意義を理解する、(3)社会が何を求めているのかを知る、(4)自分の将来を考える」の主に4点で、卒業後の自分を思い描きながら、大学生活で何を学ぶのか、どのような姿勢で学ぶのかをじっくりと考えるための授業である。そして特徴として挙げられるのは、銀行、記者などの様々な分野の第一線で活躍した教員が担当していることである。社会人としての経験をもとに、社会人としての心構え、社会が何を求めているのかを伝え、考える授業内容となっている。

また「自分と向き合う」こともこの授業の重要なテーマである。その1つとして、「自己発見レポート」というアセスメントを実施している。このアセスメントは、自分の現状を知り、大学生活の目標と行動計画を立てることを目的として実施されている。

そして毎学期1、2名のゲストスピーカーとして招き、社会人としての心構え、社会人として求められていることを、職場での体験を交えながら講演していただいている。ゲストスピーカーには本学の卒業生も含まれており、挫折をしながらも逞しくキャリアを積んでいる話などは、学生にとって大いに励みになっているようである。

「表1：「自己実現とキャリアデザイン」、「キャリアデザインI・II」履修年次、概要」にまとめられている通り、「自己実現とキャリアデザイン」は1、2年生を主に対象としていることもあり、履歴書やエントリーシートの書き方、企業分析等の就職活動に必要な知

識、スキルの修得を目指していない。一方、3、4年生を対象とした「キャリアデザイン」という授業で、上述のような就職活動に直結した知識、スキルの修得を目指した授業が実施されている。

表1：「自己実現とキャリアデザイン」、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」履修年次、概要

「自己実現とキャリアデザイン」	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」
<p>＜1年次より履修可能＞ 社会人となるための心構えやマナー、働くことの意義、社会が何を求めているのかを知る。自分の将来を考える。</p>	<p>＜3年次より履修可能＞ 就職活動全般の基本知識やスキルを学ぶ</p>

3. 開講時期、時間数、開講クラス数、クラスサイズ、履修者数

2012年度の開講時期、時間数、開講クラス数、クラスサイズ、履修者数は以下の通りである。

- (1) 開講時期：春学期と秋学期
- (2) 時間数：週1コマ、2単位
- (3) 開講クラス数：各学期6クラス、計12クラス
- (4) クラスサイズ：100名定員の抽選科目としているため、100名を超えることはない。

1クラスあたりの履修者数は、40名から100名と、曜日や時限によってばらつきがある。

- (5) 履修者数および学年別、学群別の内訳は表2の通りである。

表2：2012年度「自己実現とキャリアデザイン」履修者数内訳
春学期

	LA		総文		BM		健福		計	
	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%
1年	131	32.3	3	0.7	17	4.2	0	0	151	37.3
2年	159	39.3	17	4.2	37	9.1	5	1.2	218	53.8
3年	10	2.5	7	1.7	8	2	2	0.5	27	6.7
4年	6	1.5	2	0.5	0	0	1	0.2	9	2.2
計	306	75.6	29	7.1	62	15.3	8	1.9	405	100

秋学期

	LA		総文		BM		健福		計	
	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%	履修者数	%
1年	193	52.7	1	0.3	61	16.7	0	0.0	255	69.7
2年	47	12.8	6	1.6	24	6.6	7	1.9	84	23.0
3年	13	3.6	4	1.1	4	1.1	1	0.3	22	6.0
4年	1	0.3	2	0.5	1	0.3	1	0.3	5	1.4
計	254	69.4	13	3.5	90	24.7	9	2.5	366	100.0

(LA:リベラルアーツ学群、総文:総合文化学群、BM:ビジネスマネジメント学群、健福:健康福祉学群)

2012年度の履修者数は、春学期が405名、秋学期が366名で、合計で771名である。春学期の内訳をみると、1年生が37.3%、2年生が53.8%、3、4年生が8.9%となっており2年生が半数を占めている。一方、秋学期は1年生が69.7%、2年生が23.0%、3、4年生が7.4%となり、1年生が約70%となっている。春学期と秋学期合わせると、1年生が全体の52.7%、2年生が39.2%で、1年生と2年生合わせると9割を超えている。

4. 教材

テキストは使用せず、講師が作成したプリントを使用している。またDVDなどの視聴覚教材を多く取り入れている。

5. 評価方法

レポートやリアクションペーパー、小テストにより評価している。

6. 成果、考察、提言

学生による授業アンケートの結果からも、おおむねよい評価を得ている。社会人として第一線で活躍されていた担当教員方や、ゲストスピーカーによる社会人の「生の声」を聞くことにより、社会人として必要なことを知ると同時に、大学生活をどのように過ごすかを考える機会となっているようである。

キャリア教育というと、いわゆる就職活動のための知識やテクニックの修得に焦点が当てられる傾向にあるが、そういった知識やテクニックだけでなく、「今、大学で学んでい

ることが、社会に出てから何らかの形で必ず役に立つ」ということを伝えることにより、大学で何を学ばなければならないのかをじっくりと考える機会を与えることも重要だと考えている。そのような意味においては、この授業が果たす役割は大きい。

今後の課題として挙げられるのは、(1)履修者数を増やす、(2)他の科目間での連携である。就職活動を本格的に開始する前に、社会での心構えを知り、自分自身を知ることには大変重要だと考えている。そのため、特に1, 2年生には是非とも履修してほしい科目であるため、履修者数を増やす方策を検討していきたい。

また、学生の学力や目的意識の多様化が進む中で、3, 4年生を対象としている「キャリアデザイン」の科目との連携を図り、1年生から4年生の4年間を通じた段階的なキャリア教育の構築を再検討する必要があると考えている。

注

2000年度から開講された「キャリア開発」は2年次から履修可能であり、2003年度から全学必修科目として開講された「キャリア開発」とは異なる科目である。